

麻 酔 に つ い て

手術のときに、痛みやストレス、不安などから患者さんを守るために麻酔を行います。
大きく分けて①全身麻酔、②部分麻酔があります。

①全身麻酔は、眠る薬（鎮静薬）、痛みを取る薬（鎮痛薬）、力が入らないようにする薬（筋弛緩薬）などを使います。いずれも強力な薬であり自分で呼吸をすることができなくなるため、麻酔中は人工呼吸が必要になります。

②部分麻酔には、(1)局所麻酔（局所浸潤麻酔）、(2)下半身麻酔（脊髄くも膜下麻酔）などがあります。

ごく小さな範囲であれば部分麻酔を行い、おへそより下の3時間以内の治療であれば下半身麻酔で行うことができます。全身麻酔との違いは眠らないことです。

手術中は麻酔の管理だけでなく、血圧、呼吸、体の水分、体温など全身の状態を安定させるようにいろいろな機械、薬などをうまく使い分けて管理しています。

特に手術前からある病気や不安定な状態は麻酔をすることでさらに悪化することもあるので注意が必要です。例えば、心臓や肺に病気があると手術中の血圧や呼吸に影響します。また、肝臓や腎臓に病気があると麻酔を使う薬の効果に影響します。普段飲んでいるお薬やサプリメントなど、直接手術や麻酔に関係なさそうなものでも意外と関係してくる場合があるので、手術前にはすべての情報を教えてください。手術後に強い痛みを感じることがないように、手術中から痛み止め（点滴や局所麻酔）を組み合わせる長時間効果があるように工夫して使っています。

また、麻酔にはメリットばかりでなく副作用や合併症が起こる可能性もあるため、主治医の先生と麻酔科医が相談して患者さんに最適な方法を選択しています。

手術を控え麻酔に関して気になる事やわからない事がある場合は、主治医や看護師を通じて麻酔科医に説明を依頼してください。





患者さんのための肺がんガイドブック
日本肺癌学会著(金原出版)

医療者用の診療ガイドラインを作成した専門家が、患者さん向けに役立つ情報を質問形式で気軽に読めるようにしたものです。



図解 最新医学で治すアトピー
大塚篤司著(河出書房新社)

発症の仕組みから最新の薬物治療まで知りたかった情報など、イラストが可愛いやさしいアトピーの本です。



目の病気のメカニズム
飯島裕幸著(技術評論社)

眼の症状や治療について、知りたかった情報がわかりやすく科学的に解説しています。



60歳からソロで生きるちょうどいい孤独
鎌田 實著(かんき出版)

普段は誰かとつながっているが、一人になりたい時には「ひとりを楽しむ」ちょうどよい孤独という考えは参考になります。



不安と折り合いをつけてうまいこと老いる生き方 中村恒子著(すばる舎)

読むと元気になれる、人間関係に悩む方々へカッコよく生きる方法を教えてください。



死ぬまで働く
池田きぬ著(すばる舎)

97歳にして現役看護師として働く姿に感動します。働くすべての人へのエールになる一冊です。

お勧めの一冊

『免疫力が高まる27の生活習慣』

新型コロナウイルスが世界的に大流行し、コロナ関連のニュースを目にしない日はないという日々が続いています。感染症から身を守るためには、免疫力をあげることが大事である一方で、感染症予防の“マスク着用”“黙食”“自粛生活”によるストレスは、私たちの免疫力に大きな影響を与えています。

本書には、免疫力を上げるための生活術や食生活のちょっとしたコツが、マンガを通してコミカルに解説されています。見開きのマンガ部分だけでも、“With コロナ”を乗り切るためのヒントがたくさん詰まっています。“本を読むのが苦手”“読む時間が取れない”という方にもおすすめの一冊です。



(栄養科 菊地恵美)

【お知らせ】

コロナ禍になって2年3ヶ月が経ちました。毎日コロナウイルス感染者数を確認しては、ため息をついたり、安心してみたりと一喜一憂していませんか？自粛生活で受診や健診から遠ざかり、がんが進行した状態で発見されるケースも少なくないようです。もしもがんと診断された、または再発したなど悩みや辛さを抱えている場合は、お一人で考え込まずご相談下さい。相談者からは「話をしたらスッキリしました。」「自分が何をしたら良いのかが見えてきました。」「今度は患者本人を連れてきます。(ご家族)」などの思いが聞かれました。遠慮なくお電話ください。

地域医療連携課 古沢 しのぶ